



びすけっと

230 号—2022 年 2 月—

埼玉県立小児医療センター

血液・腫瘍科

親の会 びすけっと

もっとみなさんつながれるように…

Instagram始めました！

https://www.instagram.com/biscuit_oyanokai/



こんにちは。コロナが猛威を振るい、いつ収まるだろう、という漠然とした不安がありますよね。びすけっとでは、みなさんが安心して来られるように、感染対策を実施しています。対面だからこそ、安心できる、ほっとできる空間をご提供できればと考えています。是非、足を運んでみて下さいね。

がんの子どもを守る会 2021 年度年次大会関連企画「小児がんの子どもをきょうだいたち」

2021 年 11 月 14 日に web 開催にて標記の企画が実施されました。小澤先生の講演について概要をお伝えします。詳しい内容は後日がんの子どもを守る会の機関誌「のぞみ」に掲載される予定ですので、その際改めてお知らせします。

がんの子どもを守る会では、きょうだいを対象とした交流会「てんとうむし」、「きょうだいのための富士登山」を実施しています。また、きょうだいとのコミュニケーションをとるきっかけとなる冊子を作成しています。これらについてはがんの子どもを守る会のホームページをご覧ください。冊子の本文をダウンロードすることもできます。(柳戸)

がんの子どもを守る会 <http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会→



「小児がんの子どもをきょうだいたち」 聖路加国際病院小児科医長 小澤 美和先生

きょうだいが病気になることで他のきょうだいが孤立しがちということ、コミュニケーションが大事だということを共有したい。

子どもは親に対して愛着から信頼関係を築くことで自己肯定感を持ち、人格が形成される。きょうだいが生まれることで、自分が無条件に 1 番では無くなる。

きょうだいの病気によってそれまでの関係が滞る。家庭のバランスが変わって自分がおろそかにされていると感じてしまったり、大事にしていた場所から孤立してしまったりする。他のきょうだいを感じるのは罪悪感、孤立、恥ずかしさ、怒り、嫉妬、将来の不安など。

必要な支援は情報の共有、きょうだいの気持ちを話し合える信頼関係、きょうだいに参加していた活動の継続、教育・保育の理解、ピアとの出会い、恥ずかしい気持ちを認めること、発達段階を理解すること、きょうだい同士をできるだけ平等に扱うこと、年齢に合った体験を優先すること、コミュニケーションをとること等。

きょうだいのストレスは高く相当年齢に比較して精神発達が退行したり、エネルギーが乏しくなったりすることもある。発病前のコミュニケーションが良い場合、発病後にも適切なコミュニケーションがとれる場合が多い。

きょうだいは思いやりや自律性が発達するなどの良い点もあるが、悪い点としては否定的な感情、不安定感、友人関係の変化が見られる場合がある。

きょうだいドナー候補になった場合、(聖路加での傾向として) ドナーになれるとストレスは下がり、ドナーになれないとストレスが上がる傾向がある。

子どもの育つ場所は家以外にもあるので、支援を求めて行くことで子どもは育つことができる。きょうだいを孤立させない、コミュニケーションをとることを忘れないでほしい。

(聖路加では) きょうだい主役になるタイミングを意識する、繋がりを作る、きょうだいの存在感を伝える事を心がけている。きょうだいの頑張りにメッセージを渡している。

次回のびすけっとは、**3/8(火) 11:00~**

相談室 B (2F 総合受付奥)

- ※びすけっとの参加のためだけに病院に来られた場合、
- ・駐車料金は一般料金になりますので、病院外の駐車場をご利用することをおすすめします。
 - ・入館時の健康チェックシートは、外来・面会用ではなく、職員専用通路内にある来客・業者用をご使用ください。

※変更の場合があるため、
来る前にインスタや
LINE で確認してね。

びすけっと連絡先：代表 柳戸 民子

〒350-2224 鶴ヶ島市町屋 112-5

TEL 049-271-4708 (留守電)

e-mail yanagido@t.zaq.jp

柳戸 LINE、QR コード
ラインでのご連絡も OK!

